

- 中長期ロードマップ第3回改訂（平成27年6月12日 廃炉・汚染水対策関係閣僚等会議）のポイント

## 1. リスク低減の重視

スピード重視



リスク低減重視（スピードだけでなく、長期的にリスクが確実に下がるよう、優先順位を付けて対応）

汚染水、プール内燃料



可及的速やかに対処

燃料デブリ



周到な準備の上、安全・確実・慎重に対処

固体廃棄物、水処理二次廃棄物



長期的に対処

## 2. 目標工程(マイルストーン)の明確化



地元の声に応え、今後数年間の目標を具体化

## 3. 徹底した情報公開を通じた地元との信頼関係の強化等

福島評議会の設置（平成26年2月）



コミュニケーションの更なる充実

（廃炉に係る国際フォーラム等）

## 4. 作業員の被ばく線量の更なる低減・労働安全衛生管理体制の強化

## 5. 原子力損害賠償・廃炉等支援機構(廃炉技術戦略の司令塔)の強化

原賠・廃炉機構の発足（平成26年8月）



研究開発の一元的管理・国内外の叡智結集

中長期ロードマップは、今後の現場状況や研究開発成果等を踏まえ、継続的に見直すこととしていきます。平成27年6月12日の改訂の要点は、下記のとおりです。

### 1. リスク低減の重視

スピードだけでなく、長期的にリスクが確実に下がるよう、優先順位を付けて対応します。（汚染水対策やプール内燃料取り出しは可及的速やかに対処する、燃料デブリについては、周到な準備の上、安全・確実・慎重に対処する等、リスクに応じた対応を進めることとしています）

### 2. 目標工程の明確化

「30～40年後の廃止措置終了」等、大枠の目標を堅持した上で、優先順位の高い対策である「汚染水対策」、「燃料取り出し」を中心に、直近の目標工程を明確化しました。（次ページに詳細を記載）

### 3. 地元との信頼関係の強化

平成26年度より、地元の首長等から成る福島評議会を開催してきましたが、さらに廃炉に係る国際フォーラムを平成28年4月に福島で開催する等、地元等とのコミュニケーションの更なる充実を図ることにしています。

### 4. 作業員の被ばく線量の更なる低減・労働安全衛生管理体制の強化

継続的に現場作業を担う人材を確保するため、法定被ばく線量限度（100ミリシーベルト/5年、50ミリシーベルト/年）の遵守（上巻P145、「線量限度の適用」）にとどまらず、可能な限りの被ばく線量の低減を図ると共に、労働安全衛生管理体制を強化します。

### 5. 原子力損害賠償・廃炉等支援機構の強化

研究開発の一元的なマネジメントを図ると共に、更なる国内外の叡智の結集を進めます。

（出典：「平成27年6月12日 廃炉・汚染水対策関係閣僚等会議」

[http://www.kantei.go.jp/jp/singi/hairo\\_osensui/dai2/siryou1.pdf](http://www.kantei.go.jp/jp/singi/hairo_osensui/dai2/siryou1.pdf)）

本資料への収録日：平成28年1月18日